

## 第64回岐阜県学校保健研究大会を終えて (兼 第46回東海ブロック学校保健研究大会)

### 羽島市学校保健会

1月9日(日)、羽島市不二羽島文化センタースカイホールにて、第64回岐阜県学校保健研究大会、兼第46回東海ブロック学校保健研究大会を開催しました。

「生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を実践する子の育成をめざして～生活習慣に目を向け、進んで健康な生活を実践する子～」をテーマとし、研究発表と記念講演を行いました。

開会式では、岐阜県学校保健会会長の伊在井みどり様のご挨拶に引き続き、日本学校保健会専務理事の弓倉整様、羽島市長様よりご祝辞を賜りました。岐阜県学校保健会表彰では17名(団体含む)の方が表彰されました。また、学校環境衛生活動優良校表彰では25校2園が表彰されました。

研究発表では、羽島市学校医園医部会、栄養教諭部会、養護教諭部会の共通のテーマ「生活習慣」にかかわる取組について発表しました。

研究発表Ⅰの学校医園医部会では、「がん教育と命の大切さについて～生活習慣による命を脅かす病気やがんを学ぶ～」と題し、がん教育の授業実践について発表しました。日本対がん協作成の「まんが みんなのがん読本」の活用、保健学習に加え学校医やがん経験者の講話等から医学的・専門的に学ぶことを通して、生徒の生活習慣改善の力を育み、自らの命を守る授業を実践しました。学校医による授業では活発な意見交換がされ、生徒の事前事後アンケートから、健康診断の必要性の理解、がんに対する偏見や恐怖心の払拭、生活習慣の改善について等の意識啓発につながったことがわかりました。また家族でがん検診を話題にするきっかけにもつながりました。

研究発表Ⅱの栄養教諭部会では、「生活習慣と食生活について～健康のために主体的に食生活を整えられる子の育成～」と題し、学校給食を活用した効果的な指導の実践について発表しました。子供たちがICTを活用して主体的に給食の献立メニューを考案し、給食に採用したことで給食への関心が高まり、残食率の減少につながりました。また、個別の栄養相談指導では、養護教諭と協力

し、対象生徒に継続して栄養指導を行ったことで食生活の改善、数値の変化につながりました。さらに親子料理教室、給食試食会等の開催は、保護者の給食や食育に関する啓発につながり、家庭での食に対する意識の変容がみられました。

研究内容Ⅲの養護教諭部会では、「心身ともに健康的な生活を送るために自らメディアコントロールできる子をめざして～ウェルビーイングの視点から～」と題し、実践を発表しました。

養護教諭の専門性を生かし、保健日より家庭でのメディアコントロールの取組方法の発信、中学校区やPTAと連携したメディアコントロール週間の実施、専門的な機関との連携、児童・生徒会による主体的な活動等に取り組みました。また小中校区で「メディア川柳」「達人カード」の取組を交流し、地域ぐるみで取り組める工夫をしました。実践を通して、児童・生徒だけでなく保護者の意識も向上し、さらにウェルビーイングの視点「幸せの4つの因子」とメディアコントロールの効果を照らし合わせることで、健康課題の改善をウェルビーイングの向上につなげることができました。

記念講演では、「がんとは何かー身近な病気 がんーオンコロジストの立場より～」と題し、松波総合病院 病院長代理、岐阜大学医学部附属病院 客員臨床系医学教授の鶴見寿氏にご講演いただきました。がんに関する最新治療やがん検診、予防のための生活習慣等について、がんの専門医の立場から、わかりやすくご講話いただきました。参加者から「がん教育を実践する上で必要な知識を得られ、とても貴重な話だった」等の声をいただきました。

このように羽島市学校保健会が一丸となり実践に取り組む機会をいただき、有意義な大会となりましたのも関係者の皆様の多大なるご協力とご支援の賜物と心より感謝いたします。

最後になりますが、今後の岐阜県学校保健会の更なる発展を祈念いたしまして、第64回岐阜県学校保健研究大会の報告と致します。